



# ヨーロッパ人の日本来航/ 戦国～近世初期の貿易と文化

神奈川県立瀬谷高等学校 長島一浩

## 授業設定と時代内容の扱い

「ヨーロッパ人の日本来航/近世初期の交易と文化」を内容とする授業例を考える。テーマとしては、(1)「ヨーロッパ人の来航と南蛮貿易」、(2)「江戸幕府と朱印船貿易」を設定し、具体的には、『図説日本史通覧』p.12, 14の東アジア全図を教材とし、ワークシート実施による考察を行う。「近世」の扱いについて学習指導要領解説に「国際環境と関連付けて考察させる」とあるように、生徒に示す歴史認識として、広範囲な視点、アジア・ヨーロッパ事情との関連が大前提である。また、従来からの「一国史(各国史)観」の否定、国境を越えたその「境界」の空間自体を歴史の舞台として考えること等が肝要である。対外関係史の泰斗である故・田中健夫は、「前近代の東アジア通交圏を考察するに当たって、近代的な国境の観念はしばしば障害になることがある。」(『東アジア通交圏と国際認識』吉川弘文館、1997年)と主張して倭寇研究のパイオニアワークを担ったが、その視点は非常に興味深く説得的である。

## 授業例：ヨーロッパ人の日本来航/戦国～近世初期の貿易と文化

### ■ 課題(1) ヨーロッパ人の来航と南蛮貿易

#### —16世紀の東アジアと戦国日本—

ウォーラーステインの「世界システム論」では、近代世界システム＝資本主義世界経済の成立の端緒を16世紀とする。広範囲、グローバルな連鎖が有機的に発生し始めた時代で、地球規模での「世界」が成立、日本列島にも影響が及んで、「世界の中の日本」が明確に位置づけられる。16世紀初めにポルトガル人ピレスが著述した『東方諸国記』にある、ポルトガル最古の日本記録の存在がそれを如実に物語る。これに対して、アジアにはヨーロッパとは異なる独自のシステムが存在していた。東アジア交流史の「第一人者」である村井章介らは、アジア独自の世界システムをより意識し、中国に対する「辺境」である日本などの

独自のサブ・システム形成の志向を説く(荒野泰典他編『アジアの中の日本史 5 地域と民族(エトノス)』東京大学出版会、1992年)。そしてアジアとヨーロッパとの接触による変化が問題となるなか、その接触ではなく、アジア自体の大きな変動に着目し、アジアの主体的状況における役割をみるべきとする。アジアの変動とは具体的には、中国の明・清の王朝交代＝「華夷変態」であり、日本でも織豊政権、統一権力の出現がある。文禄・慶長の役＝壬辰・丁酉倭乱も、ヌルハチの後金建国・明朝打倒も新たなシステム成立を志向する中華帝国への挑戦として同質であり、該時期の激動は複眼的な視点から理解する必要がある。

ポルトガルのアジア進出は、アルブケルケの1511年のマラッカ占領が画期である。「世界の十字路」と称される同地はアジア広域ネットワークの心臓であり、ピレスの記録では東西数十以上の国・地域の人々にぎわい、日本は当時のアジアの辺境とされている。ヨーロッパの進出はアジア交易社会とそのネットワーク、具体的には中国人密貿易商人のルートに参入したものである。明の海禁でポルトガルは密貿易に転向するが、それを誘引したのが環シナ海地域交易の主役である「倭寇王」許棟やその後継者の王直らで、交易が非合法化された環シナ海地域の海民は結託して出自を問わない密貿易者＝海賊集団を形成する。倭寇についてはその全活動期間を通じ出自・構成への注目よりも、国家統合縮小や社会全階層の交易参加等の該時期の列島・東アジア海域特殊要因を重視し、村井らの説くボーダーレスな境界の海民集団をより意識すべきである。「鉄砲・キリスト教の伝来」はかかる状況のなかで発生をみる。ポルトガルの種子島来航は中国式ジャンクで、おそらくは親近する王直の船であり、鉄砲もアジア製の可能性がある。またザビエルが認めた日本最初のキリシタン・アンジロー(弥次郎)も、交易ルートを経て鹿児島からマラッカにきた存在であり、ザビエルの鹿児島行きも中国式ジャンクによる。なお、ヨーロッパのアジアへの依

存の反面、その軍事力と暴力性、異教徒の改宗という「合理的理由」による実力行使の脅威は認識する必要がある。ポルトガルはマカオ居住権を得て中継地としたが、そのルートの終点が平戸である。松浦氏の平戸は「最良の港」とされて王直も一時拠り、1550年のポルトガル船入港以来南蛮貿易の重要拠点となる。松浦氏の嫌教により来航地は大村氏の長崎浦に変更されるが、17世紀に入るとオランダ・イギリス東インド会社商館設立がなされ枢要性を保つ。またマカオ～平戸は、当時の世界生産量の三分の一を産出し基軸通貨のスペイン銀貨より上位とされた石見銀山の「倭銀」の流通ルートともなる。

- ・ 該時期の「世界との接触」については従来の大航海時代を優先した理解より、アジアの状況をふまえた視点を是非示したい。接触の前提としての「環シナ海地域」状況の理解は、まさしく「一国史観」の対極を示す内容であり基本的な歴史理解・考察の好例である。『図説日本史通覧』の地図・内容をふまえて地名などの事項も視覚的に理解させつつ、「考えてみよう？」の作業にてアジアの状況に意識を向けさせて理解の深化をはかりたい。
- ・ 「考えてみよう？」の作業は解答例のような記述を求めるのではなく、学習のアウトプットとして、知識・事項の理解・まとめとしての「文章化」を意図する。箇条書きでもよく、生徒各自のアイデア・オリジナリティを尊重する。大体の内容の合致があれば十分で、完成度よりも文章化自体と「質より量」を重視したい。

## ■ 課題(2) 江戸幕府と朱印船貿易

### — 朱印船貿易と東アジア —

幕藩体制成立の理解には、海外交流の「四つの窓口」＝中世以降の連続面も含めた内政・外交一体の総合的な視点が必要である。覇権継承の家康・徳川氏は、朝鮮出兵のダメージ收拾と東アジア国際関係の再構築を迫られる。新政権の正統性と勢力誇示、政権運営や経済基盤の安定にも海外交易による物資供給・利潤獲得は必須であった。環シナ海地域状況は秀吉の海賊取締令以降漸次鎮静化しており、1601年家康は東南アジア諸国と貿易交渉を開始、明との国交回復には失敗するが民間貿易は活性化し、各地への唐船来航と唐人町建設は17世紀初めに全盛を迎える。朱印船のシステムは前時代からの継承であり、16世紀の「倭寇状況」による通商・交易の繁盛成果を私的レベル

から国家側へと再編成することを意図した。また環シナ海地域交易ルートは列島の人々の東南アジアへの雄飛をうながすが、居留地である日本町が各地に建設され繁栄する。貿易の中心は南海で伸びやかに活動する日本商人らであり、京の角倉・茶屋、大坂の末吉、長崎の末次ら戦国新世代の豪商たちであった。

イベリア勢力に加えてオランダ・イギリスとも競合し、新たな東アジア国際秩序において一定の成果をあげた朱印船貿易体制はやがて転機を迎える。出会貿易の問題として常時取引・競合相手とのトラブルが存在し、保護貿易の性質上それが国家レベルの危機となるリスクを有した。家光の時代までに布教と貿易の不可分の結果、キリスト禁教とイベリア勢力排除を実施し、華夷変態＝明・清交代に際しては情勢への不介入を決めた。以降、対応する諸国・地域との関係性より幕府の都合・意図による国際関係の構築を示した、いわゆる「日本型華夷秩序」による国際交流が展開される。

最後に、沖縄＝琉球王国について付言する。海洋アジアの中心としての「古琉球」の繁栄は失われていたにせよ、16世紀以降は第二尚氏王朝の盛期で、依然重要な位置にあった。17世紀初めに薩摩侵入を経て「近世琉球」へ移行するが、沖縄は「日本の南端」ではなく、「東南アジアの北端」として、海洋アジア全体から見ると認識を強くもつべきである。

- ・ ポピュラーな政治史では「幕府成立＝内政問題」とみられがちだが、国際情勢をふまえた内政・外交一体の成果との視点が必要である。該時期の国際情勢と日本列島の統一政権との関連を的確にとらえて、激動する東アジア情勢を理解させたい。秀吉の朝鮮出兵は世紀的な大戦争であるとともにヌルハチの建国・明清交代と同様の時代的特質をもった事件であり、該時期の東アジア世界の密接な関係と連動性を如実に示す。
- ・ 朱印船貿易は、その国家管理の特性がトラブル回避のための停止という制度的矛盾をもたらす。朱印船の隆盛と途絶は、幕政確立のプロセスを一貫して反映した事項であることを認識させたい。

#### 【参考文献】

村井章介『海から見た戦国日本——列島史から世界史へ』（筑摩書房、1997年、改題『世界史のなかの戦国日本』2012年）  
同『分裂から天下統一へ』（岩波書店、2016年）など

# ヨーロッパ人の日本来航 / 戦国～近世初期の貿易と文化

## (1) ヨーロッパ人の来航と南蛮貿易 - 16世紀の東アジアと戦国日本 -

### 東アジア変動と国際関係

#### 東アジア情勢

明建国 (1368年), 永楽帝即位 (1402年) → 対外拡大 鄭和の南海大遠征 (1405～33年) 李氏朝鮮建国 (1392年) 琉球: 尚巴志の統一 (1429年) → 第二尚氏王朝成立 (1470年) 中継貿易繁栄

**作業してみよう! ①** 『図説日本史通覧』p.12, 14の東アジア全図をみて, 次の作業をやってみよう!

- ① 明と朝鮮の勢力範囲, 琉球王国の位置を記入せよ。
- ② 次の都市の位置を記入せよ。[北京, 南京, 寧波, 福州, 廈門, 広州, 澳門, 漢城, 那覇]

#### 環シナ海地域の情勢

※作業してみよう! では, 別途用意の白地図に記入してみよう

明の<sup>[1]</sup> 政策の展開…交易の非合法化, 冊封体制の変質

16世紀前半: 中国沿岸に密貿易の拠点, 「倭寇王」王直ら活躍

16世紀中頃: 日明国交途絶 <sup>[2]</sup> が最盛期

銀生産… <sup>[3]</sup> が<sup>[4]</sup> に定着 (1533年) → 博多商人・神屋寿禎が伝える (1526年)

**考えてみよう? ①** ヨーロッパ進出以前の東アジアはどのような状況だっただろうか?

### ヨーロッパの進出

※考えてみよう? では, これまでの学習事項を自分の言葉でまとめてみよう

#### イベリア勢力進出

「大航海時代」の展開…ディアス, コロンブス, ガマ, マゼランらの軌跡

ポルトガル: インド・<sup>[5]</sup> 占領 (1510年), <sup>[6]</sup> 占領 (1511年)

明より, <sup>[7]</sup> の居住権獲得 (1557年) 日本交易拠点

スペイン: ルソン島に<sup>[8]</sup> 建設 (1571年) → ポルトガル併合 (1580年)

#### 日本との接触

「鉄砲伝来」<sup>[9]</sup> 漂着 (1543年, 一説には1542年) 領主・種子島時堯が購入

「キリスト教伝来」<sup>[10]</sup> が鹿児島に到着 (1549年), 布教開始

…反宗教改革の展開 「異教徒改宗」使命, イエズス会の布教活動

#### 南蛮貿易

輸入: <sup>[11]</sup> ・鉄砲・火薬・皮革など 輸出: <sup>[12]</sup> ・刀剣など

入港地: 鹿児島(島津氏), 府内(大友氏), <sup>[13]</sup> (松浦氏) → <sup>[14]</sup> (大村氏, 1571年～)

英・蘭の進出 東インド会社の設立: <sup>[15]</sup> (1600年) <sup>[16]</sup> (1602年)

オランダはジャワ島に<sup>[17]</sup> 建設 (1619年) アンボイナ事件 (1623年) 英撤退, 日本人死亡

**作業してみよう! ②** 『図説日本史通覧』p.12, 14の東アジア全図をみて, 次の作業をやってみよう!

- ① ポルトガル, スペイン, オランダの各拠点都市について, その名称と位置を記入せよ。
- ② 次の日本の都市・地名の位置を記入せよ。[鹿児島, 種子島, 平戸, 長崎, 名護屋, 堺, 府内, 山口]

**考えてみよう? ②** 鉄砲・キリスト教伝来は, どのような状況で発生したものだろうか?

## (2) 江戸幕府と朱印船貿易 - 朱印船貿易と東アジア -

### 統一政権と東アジア

#### 秀吉と東アジア

全国統一(1590年) キリスト禁教(1587年) 海賊取締令(1588年) 後期倭寇鎮静化  
九州三大名が<sup>[18]</sup> ]派遣(1582～90年) 伊東マンショら教皇グレゴリウス13世に謁見  
朝鮮出兵:<sup>[19]</sup> ]=壬辰倭乱(1592～93年) <sup>[20]</sup> ]=丁酉倭乱(1597～98年)  
16世紀屈指の世界的戦闘→秀吉死去で撤退

#### 江戸幕府の外交

家康, 東南アジア諸国に国書(1601年) …<sup>[21]</sup> ]貿易の開始  
明との国交回復失敗 田中勝介のノビスパン派遣(1610年)  
伊達氏の慶長遣欧使節(1613～20年) 支倉常長  
蘭英との接近…リーフデ号漂着(1600年), 乗員の<sup>[22]</sup> ]・<sup>[23]</sup> ]を外交に重用  
オランダ東インド会社が<sup>[24]</sup> ]設立(1609年)→イギリス同(1613～23年)  
対朝鮮: 対馬・宗氏は<sup>[25]</sup> ] (=慶長条約) 締結(1609年) 関係修復, 通信使来日(1636年)  
対琉球: 幕府許可により, 島津氏が<sup>[26]</sup> ](1609年)→日本・中国の二重支配へ

#### 貿易の進展

<sup>[27]</sup> ]制度による統制…生糸貿易を五カ所商人に独占, ポルトガル独占排除  
<sup>[28]</sup> ]の繁栄: ルソン(呂宋), アンナン(安南), カンボジア(柬埔寨), タイ(シャム)などの各地  
豪商: 角倉了以, 茶屋四郎次郎, 末吉孫左衛門, 末次平蔵  
シャム・アユタヤで<sup>[29]</sup> ]活躍  
<sup>[30]</sup> ]の展開…明の海禁による 東アジア・ヨーロッパの取引・競合相手とのトラブル

#### 東アジア変動

<sup>[31]</sup> ]の後金建国(1616年) …国号を<sup>[32]</sup> ]とする(1636年)  
李自成の明打倒, 清軍北京入城(1644年) …明・清の交代 (=「華夷変態」) →幕府は不介入  
スペイン来航禁止(1624年), ポルトガル来航禁止(1639年)  
日本人海外渡航・帰国禁止(1635年) = 朱印船途絶

**作業してみよう! ③** 『図説日本史通覧』p.12, 14の東アジア全図をみて, 次の作業をしてみよう!

①朱印船貿易の主な航路を記入し, 東アジアなどの日本町の名称と位置を記入せよ。

**考えてみよう? ③** 幕府は成立時, 東アジアでどのような外交を考えたのだろうか?

**考えてみよう? ④** 朱印船貿易が行われた理由は何だろうか?